⁀.....*⁀*

▼△　各地でゲリラ豪雨が発生～日頃の備えで水害対策　△▼

⁀.....*⁀*

日本では、毎年６月から７月頃には梅雨前線が停滞し、８月から９月頃には台風の発生により水害が頻発し、過去 10 年間に約 97%の市町村で水害・土砂災害が発生しています（2025 年９月現在）。
さらに近年ではゲリラ豪雨や局地的大雨も多発。ゲリラ豪雨は夏によく発生しますが、大気の状態が不安定になることで、５月でも発生します。実際、東北から中国地方にかけて大気の状態が不安定になった５月 13 日午後、各地でゲリラ豪雨が発生しました。
これまでに想定できないような豪雨などにより水害が発生し、人命が失われるとともに、経済的損失も多大で、2023 年における被害額は、全国で約 7,100 億円もの額に達しています。
今回は、一人ひとりが取り組める水害への備え等について紹介します。

■「防災気象情報」を活用

まず、気象庁が発表している気象警報・注意報などの「防災気象情報」をチェックすることが基本となります。

（1）警報・注意報

気象警報を発表するような激しい現象は、ひとたび発生すると命に危険が及ぶおそれがあります。そうした現象が予想される数日前から気象庁では「早期注意情報」や「気象情報」を発表し、その後の危険度の高まりに応じて「注意報」「警報」「特別警報」を段階的に発表しています。

◆特別警報（大雨（土砂災害、浸水害）、暴風、波浪、高潮
◇警報（大雨（土砂災害、浸水害）、洪水、暴風、波浪、高潮）
・注意報（大雨、洪水、強風、波浪、高潮、雷）

なお、間もなく、大雨警報等に相当する警戒レベルの数字が付され、「レベルの数字＋現象名＋警報等」（例えばレベル３大雨警報、レベル４大雨危険警報、レベル５大雨特別警報）といった名称で情報が発表されるようになります。
市区町村は、警報などを受けて、ハザードマップ（後述）などに基づく危険な区域の住民に対して、高齢者等避難、避難指示などの発令を検討します。

（2）土砂災害警戒情報

雨が降り出したら、大雨や洪水の「警報」、さらに「土砂災害警戒情報」にも注意してください。
この「土砂災害警戒情報」は、「警報」の発表後、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに都道府県と気象庁が共同で発表しており、命を奪うような土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況であることを伝える情報です。

（3）キキクル（大雨・洪水警報の危険度分布）

気象庁では、地図上のどこで危険度が高まっているかがリアルタイムで色分けされる「キキクル（大雨・洪水警報の危険度分布）」も提供しています。
パソコンやスマートフォンから、
https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#zoom:5/lat:34.000000/lon:135.000000/colordepth:normal/elements:land
で確認できます。
キキクルで「黒」が出現した場合、重大な災害が切迫しているか、すでに発生している可能性が高い状況を表しています。
土砂災害や洪水により命に危険が及ぶ場所（土砂災害警戒区域や、山間部の中小河川で氾濫流により流失のおそれがある家屋等）では、早めの避難を心がけ、遅くとも「紫」が出現した時点で、速やかに避難開始を判断することが重要です。
自治体から高齢者等避難や避難指示が発令された場合には、キキクルの危険度に関わらず、速やかに避難行動をとってください。

■日頃からハザードマップで危険箇所をチェック

日頃から、市区町村が作成している「ハザードマップ」を活用して、危険箇所を確認しておきましょう。

ハザードマップには、河川が氾濫した場合に浸水が予想される地域、土砂災害の発生する危険性のある地区（土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域など）などが示されていますので、あらかじめ知っておくことで、早めに避難行動をとったり、危険を回避して移動したりすることができます。

なお、ハザードマップを確認することは重要ですが、過信は禁物です。ハザードマップで危険な地域になっていなくても、「うちは大丈夫」「まだ大丈夫」と甘くみずに、早めに避難行動をとりましょう。

国土交通省「ハザードマップポータルサイト」
http://disaportal.gsi.go.jp/

■雨や風が強くなる前に、家の外と中の備えの確認を
・雨が降ったり、風が強くなったりする前に、窓や雨戸はしっかりと閉め、必要に応じて補強する、側溝や排水溝は掃除して水はけをよくしておく、風で飛ばされそうな庭木やプロパンガスなどは飛ばないように固定したり、家の中へしまったりする、自動車のガソリンを満タンにしておくなど、家の外の備えをしておきましょう。雨や風が強くなってからでは、外での作業は危険です。
・また、飛散防止フィルムを窓ガラスに貼る、水を確保する、スマートフォンやパソコンをフル充電するなど、室内の備えもしておきましょう。
・さらに避難が必要になったときに備えて、避難場所だけでなく食料や薬、携帯ラジオなど非常用に持ち出すものの確認なども行っておきましょう。
近年、想定を上回る豪雨などにより、前例のないレベルの水害に見舞われるケースが全国各地で相次いでいます。
異常気象が日常となりつつある今、自らの命と家族の命を自ら守れるよう、日頃からの備えと早めの避難行動が重要となります。

⁀.....*⁀*
▼△自転車でのレインウェアの使い方に注意！△▼
⁀.....*⁀*
先月お伝えしたとおり、4月1日より改正道路交通法が施行、自転車の交通違反にも「交通反則通告制度（青切符）」が導入されました。これにより、自転車の傘差し運転は「公安委員会遵守事項違反」として反則金5,000円の対象となりました。傘をさしながら走ると、ハンドルやブレーキの操作が難しくなるうえ、バランスも崩れやすく、転倒や接触事故につながります。雨天時はレインコートやポンチョを着用して走行してください。
国民生活センターが自転車運転時にレインウェアを使用する人に対してアンケートを行ったところ、36%の人が使用中に危険を感じ、5%の人が実際に怪我をしており、その原因は、駆動部への巻き込みや周りが見えないことであることが分かりました。
使い慣れていないレインコートやポンチョで思わぬ事故を起こしたり怪我をしないよう、以下の点に注意してください。
.
◎使用する前に、レインウェアと駆動部が接触していないか確認しましょう
自転車との組み合わせによってはポンチョの裾やレインコートに付属している紐が駆動部に接触し巻き込まれることがあります。

◎風の強い日は使用しないようにしましょう
前かごまで覆うよう前丈が長く作られているロングポンチョは、風にあおられ舞い上がった際に視界が遮られることがあります。

◎フードの調整装備を正しく使用しましょう
フードの調整装備を正しく使用しないと、首を左右に動かした際に、フードが首の動きに付いてこないことがあるため、左右の視界が遮られることがあります。

◎収納袋の紐は短く束ねましょう
レインウェアの収納袋を前かごに入れて運転する場合、前かごの目が粗いと、収納袋の口を絞める紐が垂れ下がることがあります。前輪に接触した場合、巻き込まれて前輪が停止し転倒する可能性があるので短く束ねましょう。